



## 身体の距離と心の距離 ～心のディスタンスを寄せ合う学校に～

学校長 堀部 尚久

爽やかな秋風の心地よさが、ほどよく感じられる好季節となりました。

緊急事態宣言等の全面解除を受けて、いよいよ来週から待ち遠しかった一斉登校の日が帰ってきます。分散登校中は、様々な場面において活動の制限や活動環境の制約があり、子どもたちにはこれまでの学校生活では思いも寄らないほどの負荷が掛かる日々が続きました。この間学級を二分し、その上さらに学級を跨ぐ活動の回避によって、集団生活全体や集団での活動を通して学びを広げ深めるといふ、学校での教育活動のよさや楽しさを味わう機会の縮減を余儀なくされました。子どもたちにとって夏休み明けの一か月は、特に、友達に会えない、友達と共に活動できないということへの物足りなさを感じるとともに、友達と一緒に学ぶ、一緒に過ごすよさや楽しさに気付かされた毎日でもあったかと思われま

す。さて、気が付けば前期も残すところあと一週間となりました。4月からの学びや生活の振り返りを丁寧に行い、これまで取り組んできた学びや活動への価値付けをしながら、今後の課題や努力点、さらにはチャレンジすることなど、後期のめあてづくりに繋げていく時間を大切にしたいと思ひます。

コロナ禍の中で、「ソーシャルディスタンス」という言葉をあらゆる機会に耳にし、今もなお、社会生活はもとより、学校生活の中でも子どもたちにとって馴染み深い言葉となりました。この「ソーシャルディスタンス」という言葉は、一般的には心理学や社会学用語として使われていますが、日本語に訳すと「社会的距離」であり、social（社会の、社交の）という意味から、ソーシャルディスタンスを保つということは、「日常的に親しい人や家族との社会的な関係を断つ」ということを想起させ誤解を招くという懸念から、世界保健機関（WHO）では、身体と身体との距離と限定しやすいように、physical（物理的な、身体的な）という意味から、「フィジカルディスタンス」という言い方を推奨しているそうです。

確かに、人と人とのかかわりや繋がり、あるいは絆を保っていくことは、教育活動において特に大切な価値であると考えます。今後もまだしばらくは安全・安心上の留意点からすると、身体的、物理的な距離を保つことが必要ですが、人と人との精神的な距離については、寄せ合う姿を大事にしたいところです。そう考えると、精神的な距離としての心の距離、それを敢えて「心のディスタンス」と捉えていくと、これまで本校が大事にしてきた「友達づくり仲間づくり」への意識啓発・意識高揚を意図した諸活動は、どのような状況にあっても大切にしたい「心の距離を寄せ合う姿」でもあると考えます。10月は、宿泊体験学習・遠足・社会科見学をはじめとした校外での学年単位の大きな活動があります。また、校内においても、自粛していた「縦割り活動」や学年の枠を超えた様々な活動、そして、「創立130周年に関わる諸活動」も再開します。これまでのように、安全・安心な学校生活を維持しつつ、「心のディスタンス」を寄せ合いながら、これらの活動を通した学びづくりの充実に迫りたいと考えます。

9月1日に、「川上小学校GIGA開き」を実施しました。Global and Innovation Gateway for All（全ての人々にグローバルで革新的な世界への入り口を）を掲げ、文部科学省が提唱するこれからの時代を生き抜く全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現させるためのICT環境の整備とツールとしてのICT活用を意図した構想が「GIGAスクール構想」です。横浜市でも、一人一台の端末を卒業まで貸与し、学習指導要領で示された「個別最適な学び」と「協働的な学び」が相互に作用することにより、横浜が目指す学びの姿である「じっくり考え 高め合い 次につなげる確かな学び」の実現に向けて、日々の授業づくりを重ねていくことが求められています。本校では、現在利活用のルールを確認し合い、端末の操作方法や活用できる学習コンテンツの特徴を把握するなどの研鑽を重ねながら、子どもたちが正しく端末を使用できるような指導とともに、授業をはじめとする様々な教育活動での活用を試みているところです。今後、活用の幅を随時広げていく予定ですが、ご家庭においても端末の利活用に対するご理解とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。